

岡田一恵さんを偲んで

—群馬いのちの電話の歩みと共に生きた人—

理事・研修顧問 すすきいくぞう

岡田一恵さんの訃報に接したのは、6月7日午前11時頃、事務局長の今井さんからでした。突然の知らせにただただ驚くばかり。間もなく幾人の方から電話が入っていましたが、とても受け止め切れない情態でした。なぜ、何故と思いつめぐらしているうちに、数日前に岡田さんとは携帯電話で連絡し合っていましたから、もしかしたらと思ってコールしました。

驚いたことに、お嬢さんがその電話に出られ、「バン格拉デシュから飛行機便を乗り継いでお孫さんと一緒に到着したばかりです」とのことでした。せめての事と思い、枕花を送らせていただきました。

葬儀の日、息女の梨恵さんと二人のお孫さんにお会いし、お悔みを述べると「母に会って行ってください」と言われるまま、棺に眠る一恵さんに会いました。何かしきりに無念の思いがこみ上げてきました。

御主人に声を掛けられ、「祭壇の写真は、二人で小笠原に行ったとき船上で撮ったものです」と、ポツリと言われました。お二人にとってこの船旅は、忘れ難い寛ぎのひと時となったことを思い知らされました。あらためて、岡田さん御夫婦の絆の深さ優しさに触れました。

想い起こせば、岡田さんとの最初の出会いは30年ほど前に、高崎の教会付属の幼稚園で行われた第一期相談員養成課程を修了し、井殿園牧師と一緒に担当した第一期ボランティアリーダー研修に参加されていた岡田さんです。決して目立つ人ではありませんでしたが、濃紺の格子縞のシックな服を着ていた姿がなぜか印象に残っています。

岡田一恵さんが仲間と共に歩まれた群馬いのちの電話の歴史を紐解いてみますと、1992年10月3日、民家を借りて高崎センターで開局した群馬いのちの電話は、その後2000年に現在の前橋センターに移転しました。そして開局10年・

20周年を迎えて、2014年には「連なるやまなみ響きあういのち」と題した「第32回いのちの電話相談員全国研修会ぐんま大会」を、開催することが出来るまでに成長しました。このぐんま大会が、日本いのちの電話連盟傘下の全国の相談員の仲間たちとの交流の機会となったことは、2004年から事務局長を引き受けられた岡田さんにとって忘れ難い出来事であったと思います。また、私たちにとって、この大会を第5代下城茂雄理事長のもとに関口春道実行委員長を中心にして群馬いのちの電話の総力をあげて取り組んだことは、銘記すべきことでしょう。

この間、岡田さんが相談員、研修スタッフ、事務局長、常務理事として重責を担い、法人内部の各委員会にも出席され、また対外的にも群馬いのちの電話の中芯軸として奉仕活動に献身的に尽くされる姿は、誰もが認めるところです。

その後、事務局長を退かれた後も、経験知をもって広い視野から相談員のケア、養成・研修企画担当スタッフへの助言を続けてこられました。まことに、いのちの電話が大切にしてきた“voluntary spirit”（献身奉仕の精神）と“hospitality”（他者への気配り）とに満ち、人間関係を大切に作る貴重な方でした。

活動的な岡田さんは、いのちの電話以外に、アートセラピー（芸術療法）の技法を習得し、ボランティア活動をしている様子をさりげなく披露して下さったことがありました。

岡田姉が逝去されて数ヶ月が経ちます。この秋10月3日には、群馬いのちの電話は開局31年を迎えました。昨年30周年を迎えた記念式典会場で、岡田さんと「幾度もの危機的状況を乗り越えて、よくここまでできましたね」と互いに労い合ったことを思い出します。

開局30周年記念式典は、幾多の先達の献身的努力によって現在の地に活動拠点を得て、いのちの電話の社会的使命を継続できたことへの感

謝の集いでもありました。この記念式典では、日本いのちの電話連盟理事長はじめ、来賓の方々から祝辞が述べられました。

しかし、私たち群馬いのちの電話にとっては、決して楽観できる状況に無いことを誰しもが察知していました。それは、貸主から明年3月末をもって現在の活動拠点から立ち退きを求められているからです。

この懸案を案じておられる方々と共に、群馬いのちの電話の草創期から歩み続けてこられた岡田一恵さんは、なかなか展望が開けないことに大変に心痛めておられました。

現在、今井洋新理事長のもとに永年の懸案で

あった群馬いのちの電話の新たな活動拠点の移転計画が具体的に進められています。(この号が発行されるときには、移転先が理事会決定されているでしょう)

移転場所が何処であっても、大事なことは同志岡田姉と共に学び歩んで来た私たちひとり一人がその志を継承し、かけて来る人に“loving care” (心からの気遣い) をもって聴き、経験を通じて体得した“skillful art” (習熟した技能) をもって対応することが、「いのちの電話」に課せられた社会的使命を果たしていくことではないかと思えてなりません。

心より感謝を込めて御冥福を祈ります。合掌
(彼岸花が群れ咲く時節に記す)

在りし日の岡田さん



NHK 前橋の取材を受けて (2017.10.20)



開局 25 周年式典での挨拶 (2017.10.21)



FD 公開講演会の講師、山根基世さんと (2017.11.18)



太田市で行ったミニ講座にて (2019.7.21)